

愛知県自然環境保全地域

茅 原 沢



 愛知県

愛知県自然環境保全地域とは

わたしたちが、健康で文化的な生活を享受していくためには、単に物質的な豊かさのみでなく、自然とのかかわりの中で、豊かな精神性を養うことが必要です。自然は、生命はぐくむ母体であり、単に経済活動のための資源としての役割を果たすのみではなく、それ自体が豊かな人間生活に不可欠な役割をもっています。

このため、自然環境保全施策の基本となる法制度として、国においては昭和47年に自然環境保全法が、愛知県においては、昭和48年に自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例が制定されました。

愛知県自然環境保全地域は、この条例によって指定されるもので、すぐれた天然林や貴重な動植物の自生地などの貴重な自然環境を有する地域を、わたしたちの共通の財産として、将来にわたって保全しようとするものです。



茅原沢の自然

岡崎市東部の乙川と男川の合流地点に、茅原沢神明宮とその裏山の森があります。アラカシを主とする常緑広葉樹と、コナラ等の落葉広葉樹が混じった天然林となっています。このような低地林でありながら、林内にヒメシャラやオオズミの貴重な樹が点々と自生するのは県内では稀な地域です。

茅原沢の植物

ヒメシャラは樹皮が赤褐色で皮が落ちた跡は灰白色になるので、その存在がよくわかります。社殿近くには相当の古木があり、6月にはツバキに似た白花が多数見られます。オオズミはリンゴの仲間でおオウラジロノキとも言い、県内では分布の少ない樹です。果実は方言でスナシと呼び昔は食用や薬用に使われました。

アラカシは山野に多い常緑樹の代表者で多くのどんぐりをつけます。ツブラジイも多く自生し、別名ゴジイというように小形で円い果実ができます。シイの実はカシ類と違って渋味がないので食用に適し、古代人の重要な食物でした。サカキは神社にはなくてはならぬ樹で、神事に使用されます。初夏には黄色味を帯びた花が開きます。同じ仲間のヒサカキも多く、葉縁にサカキは鋸歯がないのにヒサカキにはあるので、区別は簡単です。巡視歩道で目につくものにシキミがあります。仏前に供えるのでよく知られた樹で有名な有毒植物です。

落葉樹の代表者としてコナラが多くあり、常緑ガシと同様にどんぐりをつけます。同じ仲間葉がクリに似たアベマキもあります。エゴノキもよく見かける樹で、特有の虫こぶがつきます。初夏には多くの白花が咲き、花が終わると果実がぶらさがっています。ヒメシャラに似て樹皮がはげ落ちる樹にリョウブがあり、枝の先に穂状の花を見ました。若葉は食



ヒメシャラの樹幹



ヒメシャラの花



オオズミ(オオウラジロノキ)

糧不足の時代には食べましたが、あまり美味とは言えなかったようです。林床にはヤブミョウガ、ヒメカンアオイ、キッコウハグマ、ササクサ等が見られます。

炎天下に涼しさを求めて各地の神社の森に入ると、ヤブミヨウガの白花に出会うことが多いものです。ヒメカンアオイは、ギフチョウの食草としても有名ですが、地面すれすれの所に地味な花をつけます。

林内にはベニシダ、フモトシダ、ヤワラシダ、ハリガネワラビ、コバノイシカグマ、キジノオシダ、トウゲシバ等のシダが生えています。

帰化植物は、社殿後方の伐採された所に、ヨウシュヤマゴボウとダンドボロギクが少数入っているだけで、大部分の林内には侵入しておらず、それだけ自然がよく保護されています。この天然林を郷土のかけがえのない遺産として継承していきたいものです。

茅原沢の陸貝

昭和40年ごろには、茅原沢神明宮社殿左手のコナラの倒木にツムガタギセル、裏手奥のコナラの倒木にツムガタモドキセル、便所裏のシイの切り株にミカワギセル、ヤブツバキの樹幹にナミコギセル、ヤブミヨウガの葉にニッポンマイマイ、落葉の上や下にカサキビ、ナミヒメベッコウ、コオオベソマイマイ、ヒラマイマイなど12種類も生息していました。その後しだいに衰退して、昭和60年ごろからはまったく見られなくなりました。

しかし、平成6年にツムガタモドキセルの復活が認められ、続いて7年にはだいぶん増え、さらにミカワギセルやオオケマイマイも復活しました。これもシイやコナラの倒木をそのまま放置して腐木化したためと思われます。

茅原沢の昆虫

カラスアゲハ、ジャコウアゲハ、オオミドリシジミ、アサギマダラ、ゴマダラチョウ、モノサシトンボ、ムカシヤンマ、カトリヤンマ、ヤブヤンマ、キスジカミキリ、タマムシ、アオオサムシ（ミカワオサムシ）、クロシデムシ等をはじめとした豊かな昆虫相が見られます。特に最近減少したハグロトンボを多産します。

また、保全地域に沿って流れる乙川は、ゲンジボタルの発生地として国の天然記念物に指定されています。



シキミ



ヒメカンアオイ



トウゲシバ



ツムガタモドキセル

ツムガタモドキセルについて

東北、関東、山梨、長野に分布する北方（寒地）系のキセルガイで、県内では最初猿投山で記録されたが、戦後昭和30年代になって北設山岳の段戸山、駒山、伊熊神社、茶臼山にも分布することが知られました。昭和50年に入って額田町鍛冶地区を経て乙川沿いに分布を広げてきたもので、ここ茅原沢神明宮がこの種の分布の南限となっています。なお、豊川沿いに南下したものは鳳来寺山まで、矢作川沿いに南下したものは猿投山まで分布します。紀伊、志摩から北上してきた暖地系のツムガタギセルとよく似ていますが、より長くスラリとして、λ(ラムダ)型の腔嚢(こうしゅう)も少し違います。(月状嚢がいくぶんモドキの方がスラリとしている。)

自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう。
自然に学び、自然の調和をそこなわないようにしましょう。
美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。

自然保護憲章より

ちほらざわ 愛知県茅原沢自然環境保全地域の保全計画

(昭和59年3月28日指定)

指定理由

本地域は、男川と乙川の合流点付近に位置し、標高40mの川岸から110mの尾根の間にはアラカシを主とする常緑広葉樹林及びコナラ等の落葉広葉樹林が成立している。

これらの林内には、県内稀産の種であるヒメシヤラ、オオズミ、ムヨウラン、アケボノシュスラン、ギンリョウソウ、アキノギンリョウソウなど数多くの種が生育し、県内でも貴重な森林となっている。

また、本地域には県内稀産の陸貝であるツムガタモドキギセルが生息し、本地域がその分布の南限となっていることは、学術的にも重要な価値をもっているほか、このような低地の森林にヒメシヤラが稚樹を含めて多数生育することは他に例をみない。

さらに、この地域の川岸の植生は、乙川のゲンジボタルの生息環境を保全する意味からも重要な役割を果たしている。

このため、この地域を自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例第20条第1項第4号の植物の自生地及び野生動物の生息地として愛知県自然環境保全地域に指定するものである。

川岸の部分及び北部の沢沿いに成立するアラカシ、サカキを優占種とする常緑広葉樹林の林床にムヨウラン、ギンリョウソウ、アキノギンリョウソウ等の腐生植物をもつ。

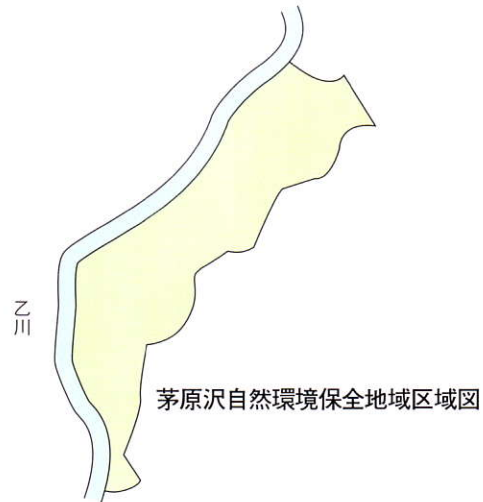
最も広域を占める落葉広葉樹林にヒメシヤラが頻度高く生育し、オオズミを混じえている点で特色がある。

(2) 野生動物

貝類のツムガタモドキギセルは、県内では、茶白山、伊熊神社にみられるが、本地域は、その分布の南限となっている。

2 面積

普通地区 (全域)
14.36ha

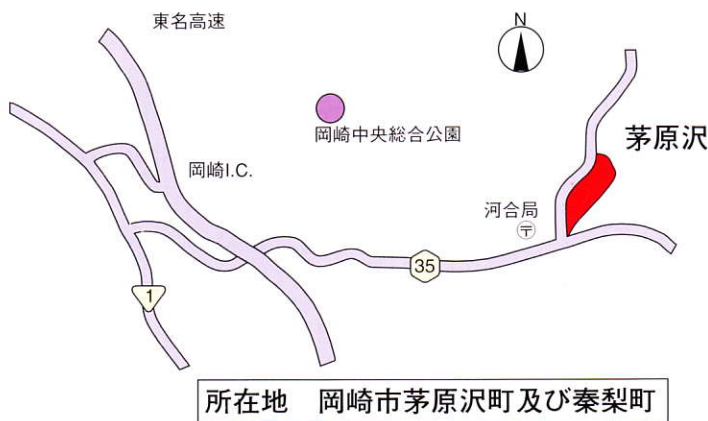


保全計画

1 保全すべき自然環境の特質

(1) 植生

茅原沢神明宮の社殿の周辺地域及び乙川に沿って



問い合わせ先

愛知県農地林務部自然保護課

名古屋市中区三の丸3-1-2

電話 (052) 961-2111 (代)

愛知県西三河事務所林務課

岡崎市明大寺本町1-4

電話 (0564) 23-1211 (代)

岡崎市環境保全課

岡崎市十王町2-9

電話 (0564) 23-6188



*このパンフレットの作成にあたり佐藤徳次氏（県自然環境保全審議会専門委員）及び原田一夫氏（県自然環境保全審議会専門委員）のご協力を受けました。